

認知症マフ ワークショップ

イギリスの病院や高齢者施設では、認知症の人が毛糸で編んだ筒状のニット製品を利用しているのをよく見かけます。「Twiddle muff (トゥイドゥルとは手でいじるという意味)」と呼ばれていて、ボタンやリボンなど、様々なアクセサリーが内外に付けられています。手を通した認知症の人が、このボタンやリボンを触ることで安心感を得られるそうです。

講師は広島県府中町で認知症マフを製作している認知症サポートグループのメンバーや連携する社会福祉協議会の職員です。「マフって何?」という基礎的な話から、製作方法、また高齢者施設への贈呈まで、これまでの活動を話します。

認知症カフェの催しにしたり、地域の人たちに製作を協力してもらったり、マフを認知症の人を支える地域づくりに役立ててください。



主催



朝日新聞厚生文化事業団

日程 2018年12/8 [土] 13:00~15:30

会場 朝日新聞アサコムホール (大阪市北区中之島2-3-18)

参加費
無料

定員:200人

プログラム

認知症マフとは (13:00~13:05)

朝日新聞厚生文化事業団大阪事務所長・山本雅彦

マフ製作について (13:05~13:25)

「だんだん」代表・伊東裕子さん

組織作りから贈呈まで (13:25~13:45)

広島県府中町社会福祉協議会 生活支援コーディネーター・檜山亮さん

***** 休憩 (13:45~14:00) *****

ワークショップ (14:00~15:30)

「だんだん」のメンバー ※4つのグループに分かれて実際の製作過程を見学します。



認知症サポートグループ「だんだん」のみなさん

ワークショップ参加申込書

※複数で参加される場合は代表者のお名前だけ記入ください

ご職業、所属 (団体・会社名など)			
ふりがな 氏名 (複数名の場合は代表者名)			性別 男・女
住所	〒 _____		
電話番号	申込人数	名	

※ご提供いただいた個人情報は個人情報保護規定に従い、本イベントに関する目的以外には使用しません。

上記申込書にご記入の上、このままファクスで送信してください。

FAX 06-6231-3004

ホームページ、Eメール、はがきでもお申込できます。

ホームページ <http://www.asahi-welfare.or.jp/>

Eメール dementia-o@asahi-welfare.or.jp

はがき 〒530-8211 (住所不要)

朝日新聞厚生文化事業団「認知症マフ」係

※参加決定の方には聴講券を送付しますので、当日ご持参ください。

【会場】 朝日新聞社アサコムホール

大阪市北区中之島2-3-18 中之島フェスティバルタワー12F

- 京阪中之島線「渡辺橋」駅、大阪メトロ四つ橋線「肥後橋」駅と直結
- 大阪メトロ御堂筋線・京阪本線「淀屋橋」駅6番または7番出口から徒歩6分
- JR大阪駅桜橋口から徒歩11分
- JR北新地駅から徒歩8分

